

久米美術館の久米邦武関連資料について

久米美術館研究員 福川 知子

tomokof@t3.rim.or.jp

久米美術館は、JR山手線目黒駅徒歩3分にあるビルの8フロアにある美術館です。30年前に建てられたビルで、歴史家久米邦武とその息子の洋画家である桂一郎を記念した美術館です。今年は開館30年目となります。

歴史資料の蒐集は、久米親子二人が集め、残した物を整理保管しています。邦武関連は7階書庫に、桂一郎関連は8階書庫と収納し、担当者も、データベースも別扱いです。二人に関する新たな研究や書物情報は集め、データベースとし、年1回発行の館報に掲載しており、寄贈書は記録保管しています。久米桂一郎関連資料は、絵を中心にフランス留学時に購入した洋書が2,000冊ぐらいありますが、これも整理済みです。

久米邦武関連資料は、外見から大きく7分類し、分類ごとに整理し、データベースを作成している段階で、統一した形にはまだなっていません。

(1) 蔵書・・・約3500冊

蔵書は、線装本すなわち和綴本と刊本に2区分しています。

線装本は、久米家のお蔵に保存されていた時は、木箱に納められていましたが、現在は紙製の秩に入れてあります。蔵書は線装本が多く、刊行本の約7倍の冊数です。

線装本のテーマは、漢詩が一番多く、邦武が漢詩愛好者であったことがうかがえます。

邦武は、歴史家であり、古代史が専門ですから、中国古典と中国歴史や日本史の蔵書が50%を占めています。その次に科学技術分野が多いのは、大砲制作のために、日本で始めて溶鉱炉を作った佐賀藩の藩主に仕えた邦武の役目を示しています。

(2) 新聞・・・12種 約100点

種類別に紙袋に収納しています。一番連載数の多いのは、郵便報知新聞です。

(3) 雑誌・・・18種 約1000冊

種類別に秩に収納しています。

雑誌は、大半は歴史分野ですが、『能楽』という芸能雑誌の投稿数が多いです。これは、明治初期に衰退した能の復興に久米が寄与したからです。開館30年を記念した特別展を今年の6月からいたしますが、この『能楽』に関する展示です。

(4) 講義録・・・約1000冊

種類別に秩に収納しています。

明治32年より久米は東京専門学校文学部の史学科の講師となり、その講義録4点は、合本され刊行されました。

(5) 手稿・・・約3000点

1点ずつ紙袋に挿入して、分野別にキャビネットに配置しています。

『特命全権大使 米欧回覧実記』の手稿が一番多く、邦武が4年かかり推敲をかさねた段階が、3段階に分類されています。

(6) 地図・・・96点

分別して紙袋に入れ書棚に保管しています。久米は、巡幸に同行した地方や郷土史を調査した地方の地図を所蔵していたのです。

(7) その他

拓本、写真、日記、メモ帳面、硯、煙管等書棚に収納しています。

* 閲覧をご希望の方は、郵便あるいはメールにて、氏名・所属・閲覧目的をお知らせいただき、予め電話にて日時を予約してご来館ください。

〒141-0021 品川区上大崎2-25-5 久米ビル8F 03-3491-1510